

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号

特開2023-2726  
(P2023-2726A)

(43)公開日 令和5年1月10日(2023.1.10)

(51)国際特許分類

F I

A 6 1 K	8/35 (2006.01)	A 6 1 K	8/35	
A 6 1 Q	13/00 (2006.01)	A 6 1 Q	13/00	1 0 0
A 6 1 Q	19/10 (2006.01)	A 6 1 Q	19/10	
A 6 1 Q	1/14 (2006.01)	A 6 1 Q	1/14	

審査請求 有 請求項の数 15 O L (全22頁)

(21)出願番号 特願2022-169618(P2022-169618)  
 (22)出願日 令和4年10月24日(2022.10.24)  
 (62)分割の表示 特願2020-541665(P2020-541665)  
 )の分割  
 原出願日 平成30年2月7日(2018.2.7)

(71)出願人 511008850  
 シムライズ アーゲー  
 ドイツ連邦共和国 3 7 6 0 3 ニーダー  
 ザクセン ホルツミンデン ミューレンフ  
 エルトシュトラッセ 1  
 (74)代理人 110003018  
 弁理士法人プロテクトスタンス  
 (72)発明者 ベネッシ カリマ  
 フランス共和国 パリ 7 5 0 1 6 ルー  
 クラウド テレッセ 4 0  
 (72)発明者 シュミット リーア  
 ドイツ連邦共和国 ハーメルン 3 1 7 8  
 9 アシュテルンシュトラッセ 2  
 (72)発明者 ヘルマン マルティナ  
 フランス共和国 ブローニュ=ビヤンク  
 最終頁に続く

(54)【発明の名称】 化粧品組成物の安定化のための [ 6 ] - パラドールの使用

(57)【要約】 (修正有)

【課題】化粧品組成物を安定化させるための、BHTの代替物を提供する。

【解決手段】クレンジング組成物および香料組成物からなる群から選択される化粧品組成物を安定化するための [ 6 ] - パラドール [ IUPAC名: 1 - ( 4 - ヒドロキシ - 3 - メトキシフェニル ) - デカン - 3 - オン、CAS番号: 2 7 1 1 3 - 2 2 - 0、FEMA 4 6 6 5 ] の使用を提供する。

【選択図】なし

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

クレンジング組成物および香料組成物からなる群から選択される化粧品組成物を安定化するための [ 6 ] - パラドールの使用。

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、化粧品組成物を安定化させる方法、化粧品組成物を安定化させるための [ 6 ] - パラドールの使用、特に [ 6 ] - パラドールを含む石鹸およびオードトワレに関する。

10

## 【背景技術】

## 【0002】

[ 6 ] - パラドールは既知の物質である [ I U P A C 名 : 1 - ( 4 - ヒドロキシ - 3 - メトキシフェニル ) - デカン - 3 - オン、C A S 番号 : 2 7 1 1 3 - 2 2 - 0、F E M A 4 6 6 5 ]。 [ 6 ] - パラドールは、例えば、H . D . L o c k s l e y らによって報告された手順に従って、対応する不飽和類似体を接触水素化することによって合成することができ ( J . C h e m . S o c , P e r k i n T r a n s . I 1 9 7 2、4 4 2、3 0 0 1 ~ 3 0 0 6 ) または天然資源から精製することができる。 [ 6 ] - パラドールは、温度 ( 融点 3 1 ~ 3 2、D i c t i o n a r y o f N a t u r a l P r o d u c t s ) に応じて淡黄色から無色の固体または液体であり、特に本発明による組成物に必要とされる使用レベルが低いと臭気が少ない。

20

## 【0003】

[ 6 ] - パラドールおよびその同族体の抗酸化および抗腫瘍促進効果が報告されている ( M u t a t i o n R e s e a r c h 2 0 0 1、4 0 0 2 7 9、1 - 8 )。 [ 6 ] - パラドールは *i n v i t r o* で H 2 O 2 と紫外線による酸化された DNA 塩基の形成を減衰させる。 [ 6 ] - パラドールの抗酸化効果は、3 0 m g / k g 体重の経口投与という観察からも推定される。 D M B A 処理から 1 4 週間の隔日での D M B A 処理ハムスターに対する [ 6 ] - パラドールは、抗酸化物質の状態を大幅に改善した ( P h a r m a c o l o g i c a l r e p o r t s、2 0 1 0、6 2、1 1 7 8 - 1 1 8 5 )。

## 【0004】

[ 6 ] - パラドールと不飽和脂肪酸の組成物は、W O / 2 0 1 7 / 0 9 7 3 6 2 から知られている。ただし、ここでの主な焦点は、植物油を含む食品、又はいくつかのクリームなどのレゾルシノールを含む化粧品組成物の安定化である。クレンジングおよびフレグランス組成物のような化粧品組成物の安定化は記載されていない。

30

## 【0005】

化粧品組成物は、クレンジングおよびフレグランス組成物として、光および熱からの酸化に極めて敏感である。例えば、クレンジング組成物において、酸化は、酸敗、変色、および臭いの偏差 ( o d o r d e v i a t i o n s ) を誘発する。通常、このようにして得られた不快な典型的な臭いおよび / または酸化石鹸組成物の色を覆うために、香料および着色剤が石鹸に使用される。

40

## 【0006】

しかしながら、着色剤およびフレグランスのような頻繁に使用されるこれらの添加剤はまた、特に空気、UV、光および熱のような酸化剤に曝された場合、経時的に強い色および臭いの偏差をもたらす不安定性の問題を抱えている。

## 【0007】

この理由により、脂肪酸、フレグランスおよび着色剤を酸化から保護するために、抗酸化剤がクレンジング製剤にしばしば使用される。同じ原理に基づいて、フレグランス組成物はまた、非常に酸化されやすく、色とにおいに強い偏差を示す。クレンジングおよびフレグランス組成物における着色剤および臭気保護のために市場で最も広く使用されている抗酸化剤は、ブチル化ヒドロキシトルエンであり、ジブチルヒドロキシトルエン ( B H T

50

)としても知られている。

#### 【0008】

BHTは親油性有機化合物であり、化学的にはフェノールの誘導体である。工業的には、BHTは、p-クレゾール(4-メチルフェノール)とイソブチレン(2-メチルプロペン)とを硫酸で触媒することにより調製される。あるいは、BHTは、ヒドロキシメチル化またはアミノメチル化とそれに続く水素化分解によって、2,6-ジ-tert-ブチルフェノールから調製される。

#### 【0009】

しかしながら、BHTはその毒性についても知られている。現在、BHTとがんリスクおよび喘息との関連については議論がある。さらに、内分泌かく乱の*in vitro*適応症がある。さらに、BHTはアレルギーのような症状を引き起こす疑いがある。特に化粧品におけるBHTの使用において、アレルギー性皮膚反応が報告されている。したがって、特にBHTを含まないクレンジングおよびフレグランス組成物のための新しい化粧品組成物が必要とされている。

10

#### 【0010】

したがって、本発明の目的は、従来技術の欠点を克服する化粧品組成物におけるBHTの代替物を提供することである。具体的には、本発明の目的は、クレンジングおよびフレグランス組成物を色および/または臭いの偏差から保護することができるBHTの効率的で費用効果の高い代替物を提供することである。

#### 【発明の概要】

20

#### 【0011】

この目的は、化粧品組成物を安定化するための[6]-パラドールの使用である本発明の主題によって解決され、化粧品組成物は、クレンジング組成物およびフレグランス組成物からなる群から選択される。

#### 【0012】

驚くべきことに、[6]-パラドールがクレンジングおよびフレグランス組成物を安定化させることが見出された。本発明の意味における安定化は、少なくとも部分的に化粧品組成物である安定化として理解されるべきである。言い換えれば、[6]-パラドールの使用は、例えば酸素、温度、および/または光のクレンジングおよびフレグランス組成物である化粧品組成物を保護し、したがって[6]-パラドールの使用は、臭気変化から保護するおよび/または変色から化粧品組成物成分を保護する。

30

#### 【0013】

本発明の別の利点は、BHTのようなさらなる安定化成分または抗酸化剤を化粧品組成物に添加することなく、[6]-パラドールを安定化成分または抗酸化剤として使用できることである。したがって、6-パラドールは、単独で、またはEDTAやBHTなどの従来の安定剤や抗酸化剤と組み合わせて使用できる。

#### 【0014】

本発明による好ましい実施形態では、[6]-パラドールの使用は、化粧品組成物の臭気および/または色を安定化させる。本発明による別の好ましい実施形態では、[6]-パラドールは、化粧品組成物を変色および/または臭いの偏りから保護する。本発明の意味における化粧品組成物は、クレンジング組成物および/またはフレグランス組成物として理解されるべきである。

40

#### 【0015】

本発明によるクレンジング組成物は、例えば、皮膚洗浄のための石鹸、洗剤、クレンジングローションなどである。さらに、髪の毛の洗浄と保護のためのシャンプー、コンディショナーなどである。さらに口腔衛生のための練り歯磨き、歯磨き粉などである。さらに環境に存在する化学物質、ほこりや土壌、紫外線、昆虫又はその他の有害物質の有害な影響から皮膚を保護する、クリーム、乳濁液、日焼け止め剤、日焼け防止剤、潤滑剤およびマッサージ剤、虫除け剤などである。

細菌の作用を排除することによって臭気または個人の湿り気を改善または排除する制汗剤

50

、足の消臭剤、うがい薬など、および/または表面での薬物の保持も、この基本的な化粧品のカテゴリーに含まれる。本発明による好ましい実施形態では、クレンジング組成物は石鹸である。

【0016】

本発明によるフレグランス組成物は、例えば、当技術分野でよく知られているフレグランス化合物および香味化合物を含む。これらの香味料は、植物の葉、花、果物など、およびそれらの組み合わせに由来する合成香味液および/または油から選択することができる。代表的なフレーバー液は、ユーカリ、レモン、オレンジ、バナナ、グレープ、ライム、アプリコット、グレープフルーツオイルなどの人工、天然、または合成のフルーツフレーバーと、リンゴ、イチゴ、チェリー、オレンジ、パイナップルなどのフルーツエッセンス

10

【0017】

香味料化合物は、好ましくは、例えば、アニソール、バジルオイル、ベルガモットオイル、苦いアーモンドオイル、クスノキオイル、シトロネラオイル、レモンオイルなどの精油および抽出物、チンキ剤およびバルサムからなる群から選択される。ユーカリシトリーラオイル、ユーカリオイル、フェネルオイル、グレープフルーツオイル、カモミールオイル、スペアミントオイル、キャラウェイオイル、ライムオイル、マンダリンオイル、ナツメグオイル（特にナツメグプロッサムオイル＝メイスオイル、メイスオイル）、ミルラオイル、クローブオイル、クローブプロッサムオイル、オレンジオイル、オレガノオイル、パセリ（シード）オイル、ペパーミントオイル、ローズマリーオイル、セージオイル（クラリーセージ、ダルマチアまたはスペインのセージオイル）、スターアニスオイル、タイムオイル、バニラエキス、ジュニパーオイル（特にジュニパーベリーオイル）、ウィンターグリーンオイル、シナモンリーフオイルからなる群から選択される。シナモン樹皮油、およびその画分、またはそこから単離されたから選択される。

20

【0018】

本発明によるフレグランス組成物が、以下の群から選択される少なくとも1つのフレーバー化合物、好ましくは2、3、4、5、6、7、8以上のフレーバー化合物を含む場合、特に有利である。メントール（好ましくは1-メントールおよび/またはラセミメントール）、アネトール、アニソール、アニスアルデヒド、アニシルアルコール、（ラセミ）ネオメントール、ユーカリプトール（1,8-シネオール）、メントン（好ましくはL-メントン）、イソメントン（好ましくはD-イソメントン）、イソプレゴール、酢酸メンチル（好ましくはL-メンチルアセテート）、メンチルプロピオネート、カルボン（好ましくは(-)-カルボン、任意でスペアミントオイルの成分として）、サリチル酸メチル（任意で冬緑油の成分として）、酢酸オイゲノール、イソオイゲノールメチルエーテル、ベータホモシクロシトラール、オイゲノール、イソブチルアルデヒド、3-オクタノール、硫化ジメチル、ヘキサノール、ヘキサナール、トランス-2-ヘキセナール、シス-3-ヘキセノール、4-テルピネオール、ピペリトン、リナロール、酢酸8-オシメニル、イソアミルアルコール、イソパレルアルデヒド、アルファピネン、ベータピネン、リモネン（好ましくはD-リモネン、必要に応じてエッセンシャルオイルの成分として）、ピペリ

30

40

50

## 【 0 0 1 9 】

特に好ましいフレグランスまたは風味付け化合物は、メントール、シネオール、オイゲノール、チモール、桂皮アルデヒド、ペパーミントオイル、スベアミントオイル、ユーカリオイル、タイムオイル、シナモンオイル、クローブオイル、スプルーズニードルオイル、フェネルオイル、セージオイル、アニスオイル、スターアニスオイル、カモミールオイル、キャラウェイオイル、およびそれらの混合物である。

## 【 0 0 2 0 】

本発明による一実施形態では、フレグランス組成物は、クレンジング組成物、好ましくは石鹼に含めることができる。フレグランス組成物がクレンジング組成物、好ましくは石鹼ブレンドに含まれる場合、バランスの取れた香水および/またはオードトワレに到達するために、通常は多数の異なる化合物から作られるが、クレンジング組成物から一度にすべて放出されるわけではなく、好ましくは石鹼の使用時または保管時に放出される。またはクレンジング組成物、好ましくは石鹼の使用時に制御された方法で放出される。

10

## 【 0 0 2 1 】

本発明による別の実施形態では、香料組成物は、例えば、衛生製品または光源などの他の組成物に含めることができる。本発明による好ましい実施形態では、香料組成物はエアフレッシュナーに添加される。本発明による別の好ましい実施形態では、フレグランス組成物はろうそくに加えられる。

## 【 0 0 2 2 】

本発明による一実施形態では、フレグランス組成物は、香水またはオードトワレである。本発明による好ましい実施形態では、香料組成物はオードトワレである。

20

## 【 0 0 2 3 】

本明細書で使用される場合、単数形「a」、「an」、および「the」は、文脈がそうでないことを明確に指示しない限り、複数の言及を含む。例えば、用語「化合物」または「少なくとも1つの化合物」は、それらの混合物を含む複数の化合物を含み得る。したがって、例えば、「化粧品組成物」、「化粧品組成物」、または「化粧品組成物」への言及は、複数の化粧品組成物も含む。

## 【 0 0 2 4 】

本発明によるさらなる実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、化粧品組成物の臭いを安定させる。本発明によるさらなる実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、化粧品組成物の色を安定させる。本発明によるさらなる実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、化粧品組成物の臭気および色を安定させる。本発明による好ましい実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、クレンジング組成物の臭いを安定させる。本発明による好ましい実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、クレンジング組成物の色を安定させる。本発明による好ましい実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、クレンジング組成物の臭気および色を安定させる。本発明による好ましい実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、香料組成物の臭いを安定させる。本発明による好ましい実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、フラケス組成物の色を安定させる。本発明による好ましい実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、香料組成物の臭気および色を安定させる。

30

## 【 0 0 2 5 】

本発明による別の実施形態では、[ 6 ] - パラドールの使用量は、組成物の総重量に対して0.00001~1重量%、好ましくは0.001~0.1重量%の範囲、特に好ましくは0.005~0.05重量%の範囲である。[ 6 ] - パラドールの最も好ましい量は、組成物の総重量に対して0.01から0.02重量%である。[ 6 ] - パラドールの別の最も好ましい量は、組成物の総重量に対して0.05重量%である。[ 6 ] - パラドールの別の最も好ましい量は、組成物の総重量に対して0.005重量%である。

40

## 【 0 0 2 6 】

本発明による好ましい実施形態では、化粧品組成物はBHTを含まない。言い換えれば、本発明による好ましい実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、化粧品組成物の安定化のために単独で使用される。「単独」という用語は、この文脈では、BHTを使用しない[

50

6 ] - パラドールの使用を意味する。

【 0 0 2 7 】

本発明による一実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、溶剤との混合物として化粧品組成物に添加される。本明細書では、[ 6 ] - パラドールに適した任意の溶剤、植物油トリグリセリドなどの油を使用することができる。例えば、カプリル酸 / カプリン酸トリグリセリドまたは植物油（例えば、精製、水素化、または非処理などの処理済み）、大豆（グリシンソジャ）油、ヒマワリ（ヒマワリアヌス）種子油、ヒマ（Ricinus Communis）種子油、小麦（Triticum Vulgare）胚芽油、トウモロコシ（Zea Mays）油、スイートアーモンド（Prunus Amygdalus Dulcis）種子油、ゴマ（Sesamum Indicum）シードオイル、オリーブ（Olea Europaea）オイル、鉱油（paraffinum Liquidum）である。

10

有機溶剤（合成または天然由来）も使用することができる。ジプロピレングリコール、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸エチル、ミリスチン酸メチル、アジピン酸ジオクチル、クエン酸トリエチル、トリアセチン、酒石酸ジエチル、乳酸エチル、乳酸ブチルである。イソパラフィン系炭化水素も使用することができる。例えば、アイソパー M、アイソパー L、アイソパー H、アイソパー G のようなアイソパーシリーズである。アルコールも使用することができる。例えば、エタノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール、フェノキシエチルアルコール、プロピレングリコール、ブチレングリコール、1, 3 - プロパンジオール、ヘキシレングリコール、1, 2 - ペンタンジオール、1, 2 - ヘキサジオール、1, 2 - オクタンジオール、または 2 つ以上の混合物上記の溶剤である。

20

【 0 0 2 8 】

本発明による好ましい実施形態では、カプリル酸 / カプリン酸トリグリセリド（CCTG）が溶剤として使用される。本発明によるさらに好ましい実施形態では、大豆（グリシンソハ）油、ヒマワリ（ヒマワリ）の種子油または鉱油が溶剤として使用される。さらに好ましい実施形態では、水および / または混和性溶剤が溶剤として使用される。例えばエタノール、イソプロピルアルコール、クエン酸トリエチル、プロピレングリコール、ブチレングリコール、1, 3 - プロパンジオール、1, 2 - ペンタンジオール、1, 2 - ヘキサジオールである。本発明によるさらに好ましい実施形態では、ジプロピレングリコール（DPG）が溶剤として使用される。本発明によるさらに好ましい実施形態では、ミリスチン酸イソプロピル（IPM）またはパルミチン酸イソプロピル（IPP）が溶剤として使用される。本発明によるさらに好ましい実施形態では、ジオクチルアジペート（DOA）が溶剤として使用される。本発明によるさらに好ましい実施形態では、アイソパー M などのイソパラフィン系炭化水素が溶剤として使用される。

30

【 0 0 2 9 】

本明細書にさらに開示されるのは、化粧品組成物を安定化させる方法であり、[ 6 ] - パラドールが化粧品組成物に添加され、化粧品組成物は、クレンジング組成物およびフレグランス組成物からなる群から選択される。

【 0 0 3 0 】

本発明の方法による好ましい実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、化粧品組成物の臭気および / または色を安定させる。本発明による別の好ましい実施形態では、[ 6 ] - パラドールは、化粧品組成物を変色および / または臭いの偏差から保護する。本発明の意味における化粧品組成物は、クレンジング組成物および / またはフレグランス組成物として理解されるべきである。

40

【 0 0 3 1 】

本発明の方法による好ましい実施形態では、クレンジング組成物は石鹸である。

【 0 0 3 2 】

本発明の方法による一実施形態では、フレグランス組成物は、香水またはオードトワレである。本発明による好ましい実施形態では、香料組成物はオードトワレである。

50

## 【0033】

本発明の方法による別の実施形態では、[6]-パラドールは、0.0001~1重量%、好ましくは0.001~0.1重量%の範囲、特に好ましくは以下の範囲の量で使用される。組成物の総重量に対して0.005~0.05重量%。[6]-パラドールの最も好ましい量は、組成物の総重量に対して0.01から0.02重量%である。[6]-パラドールの別の最も好ましい量は、組成物の総重量に対して0.05重量%である。

## 【0034】

本発明の方法による好ましい実施形態では、化粧品組成物はBHTを含まない。言い換えると、本発明の方法による好ましい実施形態では、化粧品組成物の安定化のために[6]-パラドールが単独で使用される。「単独で」という用語は、この文脈では、BHTなしでの[6]-パラドールの使用を意味する。

10

## 【0035】

本発明の方法による一実施形態では、[6]-パラドールは、溶剤との混合物として化粧品組成物に添加される。本明細書では、[6]-パラドールに適した任意の溶剤は、以下に示すものを使用することができる。例えば、カプリル酸/カプリン酸トリグリセリドなどの油である植物油トリグリセリド、植物油（例えば、精製、水素化、または非処理などの処理済み）、例えば、大豆（グリシンソジャ）油、ヒマワリ（ヒマワリアヌス）種子油、ヒマ（*Ricinus Communis*）種子油、小麦（*Triticum Vulgare*）胚芽油、トウモロコシ（*Zea Mays*）油、スイートアーモンド（*Prunus Amygdalus Dulcis*）種子油、ゴマ（*Sesamum Indicum*）シードオイル、オリーブ（*Olea Europaea*）オイル、鉱油（*paraffinum Liquidum*）である。また、有機溶剤（合成または天然由来）などのジプロピレングリコール、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸エチル、ミリスチン酸メチル、アジピン酸ジオクチル、クエン酸トリエチル、トリアセチン、酒石酸ジエチル、乳酸エチル、乳酸ブチルである。イソパラフィン系炭化水素も使用することができる。例えば、アイソパーM、アイソパーL、アイソパーH、アイソパーGのようなアイソパーシリーズである。また、アルコールも使用することができる。例えばエタノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール、フェノキシエチルアルコール、プロピレングリコール、ブチレングリコール、1,3-プロパンジオール、ヘキシレングリコール、1,2-ペンタンジオール、1,2-ヘキサジオール、1,2-オクタンジオール、または2つ以上の混合物である。

20

30

## 【0036】

本発明の方法による好ましい実施形態では、カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド（*CC TG*）が溶剤として使用される。本発明によるさらに好ましい実施形態では、大豆（グリシンソハ）油、ヒマワリ（ヒマワリ）の種子油または鉱油が溶剤として使用される。さらに好ましい実施形態では、水および/または混和性溶剤、例えばエタノール、イソプロピルアルコール、クエン酸トリエチル、プロピレングリコール、ブチレングリコール、1,3-プロパンジオール、1,2-ペンタンジオール、1,2-ヘキサジオールが溶剤として使用される。本発明の方法によるさらに好ましい実施形態では、ジプロピレングリコール（*DPG*）が溶剤として使用される。本発明の方法によるさらに好ましい実施形態では、ミリスチン酸イソプロピル（*IPM*）またはパルミチン酸イソプロピル（*IPP*）が溶剤として使用される。本発明の方法によるさらに好ましい実施形態では、ジオクチルアジペート（*DOA*）が溶剤として使用される。本発明の方法によるさらに好ましい実施形態では、アイソパーMなどのイソパラフィン系炭化水素が溶剤として使用される。

40

## 【0037】

本明細書でさらに開示されるのは、[6]-パラドールを含む石鹸である。本明細書では、任意の石鹸、例えば石油ベースの製品から作られる合成石鹸、鉛、亜鉛、または他の重金属化合物から作られる重石鹸、液体石鹸または固体石鹸をカバーする。

## 【0038】

一実施形態では、[6]-パラドールは、石鹸の総重量に対して石鹸中に0.0001

50

～ 1 重量%、好ましくは 0.001～0.1 重量%の範囲、特に好ましくは 0.005～0.05 重量%の範囲の量で存在する。[6]-パラドールの最も好ましい量は、石鹼の総重量に対して 0.01 から 0.02 重量%である。[6]-パラドールの別の最も好ましい量は、石鹼の総重量に対して 0.005 重量%である。

#### 【0039】

本明細書でさらに開示されるのは、[6]-パラドールを含むオードトワレである。一実施形態では、[6]-パラドールは、オードトワレの総重量に対してオードトワレ中に 0.0001～1 重量%、好ましくは 0.001～0.1 重量%の範囲、特に好ましくは 0.005～0.05 重量%の量で存在する。[6]-パラドールの最も好ましい量は、オードトワレの総重量に対して 0.01 から 0.02 重量%である。[6]-パラドールの別の最も好ましい量は、オードトワレの総重量に対して 0.05 重量%である。

10

#### 【0040】

本明細書にさらに開示されるのは、[6]-パラドールを含むエアフレッシュナーである。一実施形態では、[6]-パラドールは、エアフレッシュナーの総重量に関連して、エアフレッシュナー中に 0.0001～1 重量%、好ましくは 0.001～0.1 重量%の範囲、特に好ましくは 0.005～0.05 重量%の範囲の量で存在する。[6]-パラドールの最も好ましい量は、エアフレッシュナーの総重量に対して 0.01 から 0.02 重量%である。[6]-パラドールの別の最も好ましい量は、エアフレッシュナーの総重量に対して 0.05 重量%である。

#### 【0041】

本明細書でさらに開示されるのは、[6]-パラドールを含むろうそくである。一実施形態では、[6]-パラドールは、ろうそくの総重量に対してろうそく中に 0.0001～1 重量%、好ましくは 0.001～0.1 重量%の範囲、特に好ましくは 0.005～0.05 重量%の範囲の量で存在する。[6]-パラドールの最も好ましい量は、ろうそくの総重量に対して 0.01～0.02 重量%である。[6]-パラドールのもう 1 つの最も好ましい量は、ろうそくの総重量に対して 0.05 重量%である。

20

#### 【0042】

前述の説明ならびに以下の例示的な実施形態の説明は、特定の実施形態または特徴の放棄を表すものではない。

#### 【図面の簡単な説明】

30

#### 【0043】

本発明は、図面に示されるような特定の実施形態を参照してさらに詳細に説明される。

【図1】図1は、石鹼ベース1の酸敗臭（過酸化物価）に関する結果を示している

【図2】図2は、ソーブベース2の酸化臭（過酸化物価）に関する結果を示している。

【図3】図3は、ソーブベース1の酸化臭（比色測定）に関する結果を示している。

【図4】図4は、ソーブベース2の酸化臭（比色測定）の結果を示している。

【図5】図5は、石けんベース1の酸化臭（オキシプレステスト）に関する結果を示している。

【図6】図6は、石けんベース2の酸化臭に関する結果を示している。（オキシプレステスト）

40

【図7】図7は、石鹼ベース1の色保護（比色測定）に関する結果を示している。

【図8】図8は、石鹼ベース2の色保護（比色測定）に関する結果を示している。

【図9】図9は、石鹼ベース1の色保護（オキシプレステスト）に関する結果を示している。

【図10】図10は、石鹼ベース2の色保護（オキシプレステスト）に関する結果を示している。

#### 【実施例1】

#### 【0044】

実施例1：フレグランス組成物の安定化

この研究は、[6]-パラドールがフレグランス組成物中のBHTの代替となり得るかど

50

うかを検証するために、2つのフレグランス（FEROCEとECLAT）で開始される。  
[6]-パラドールの有効性を、フレグランスECLATの保護について、およびEDTAの存在下での保護フレグランスFEROCEについて、単独でBHTと比較する。  
フレグランスECLATは変色の問題に非常に敏感であると思われるが、フレグランスFEROCEは色や臭いの変化の影響を受けやすいと考えられている。

フレグランスFEROCEの匂いの説明：

TOPノート：ベルガモット、柑橘類

HEARTノート：フローラル、ジャスミン、ガーデニア

ベースノート：ウッド、シダーウッド、アニマル、ムスク、サンダルウッド

フレグランスECLATの匂いの説明：

トップノート：コショウ、葉緑、マンダリン

ハートノート：ジャスミン、フローラル、ユリの谷、ローズウッド、オリス、バイオレット、

ベースノート：ウッド、ムスク、サンダルウッド、バルサム、シダーウッド、アニマル

[6]-パラドールは、エタノールまたはDPGのいずれかの溶剤に10%の濃度で可溶化されている（「ブレンド」）。次に、「ブレンド」を香料配合物に加えて、配合物中の6-パラドールの最終濃度を0.01%または0.05%にする。BHTは、エタノールに10%の濃度であらかじめ溶解し、続いて0.05%の最終的なコンサートに到達するように製剤に添加する。

10

20

30

40

50

【0045】

【表1】

フレグランスECLAT

添加物/試験	1(コントロール)	2(エタノール中のBHT)	3(DPG中の6-パラドール)	4(DPG中の6-パラドール)	5(エタノール中の6-パラドール)
溶剤	エタノール	エタノール	DPG	DPG	エタノール
ブレンド(%)	-	0.5%	0.1%	0.5%	0.5%
[6]-パラドール(%)	-	-	0.01	0.05	0.05
BHT(%)	-	0.05	-	-	-

【表2】

フレグランスFEROCE

添加物/試験	1(コントロール)	2(エタノール内BHT)	3(DPGの6-パラドール)	4(DPGの6-パラドール)	5(エタノール中の6-パラドール)
溶剤	エタノール	エタノール	DPG	DPG	エタノール
ブレンド(%)	-	0.5%	0.1%	0.5%	0.5%
[6]-パラドール(%)	-	-	0.01	0.05	0.05
BHT(%)	-	0.05	-	-	-
EDTA(%)	-	0.001	0.001	0.001	0.001

【0046】

視覚的および嗅覚的評価

## 【 0 0 4 7 】

EDTのすべてのサンプルは、異なる条件 - RTダーク、RTライト、5（「フレッシュ」）、3ヶ月間40 および1ヶ月間50 - に置かれ、毎月評価される。Sun（太陽）テスト（キセノンランプ（1500W）を装備）も16時間実行される。すべての条件に対して、毎月色の目視評価が行われる。50°Cと40 およびSunテスト後に、保管されたサンプルの嗅覚評価が行われた。

## 【表3】

## 評価スケール

$\Delta I$	$\Delta N$	$\Delta C$
フレグランスの影響 変度	フレグランス 快樂プロ ファイル	フレグランスのカラーパリエー ション
5 = 変化なし	5 = 変化なし	5 = 変化なし
4 = 若干変化あり	4 = 若干変化あり	4 = 若干変化あり
3 = 顕著な変化あり	3 = 顕著な変化あり	3 = 顕著な変化あり
2 = 著しい変化あり	2 = 著しい変化あり	2 = 著しい変化あり
1 = 極端な変化あり	1 = 極端な変化あり	1 = 極端な変化あり
		+ = 暗い
		- = 明るい

10

20

## 【 0 0 4 8 】

30

40

50

【表 4】

フレグランス ECLAT の結果

抗酸化物質なし	安定性 $\Delta N$	色 $\Delta C$
5°C (3ヶ月)	-	5
Sunテスト (16時間)	3	3+
50°C (1ヶ月)	2	2+
40°C (3ヶ月)	3	2+
RT Light (3ヶ月)	-	4+

10

0.05% BHT (エタノール中)	安定性 $\Delta N$	色 $\Delta C$
5°C (3ヶ月)	-	5
Sun テスト (16時間)	4-	4+
50°C (1ヶ月)	3	2+
40°C (3ヶ月)	4	2+
RT ライト (3ヶ月)	-	5+

0.05% 6-パラドール (エタノール中)	安定性 $\Delta N$	色 $\Delta C$
5°C (3ヶ月)	-	5
Sun テスト (16時間)	4	3+
50°C (1ヶ月)	4	2+
40°C (3ヶ月)	4	2+
RT ライト (3ヶ月)	-	4-

20

0.05% 6-パラドール (DPG中)	安定性 $\Delta N$	色 $\Delta C$
5°C (3ヶ月)	-	5
Sun テスト (16時間)	4	3+
50°C (1ヶ月)	4	2+
40°C (3ヶ月)	4	2+
RT ライト (3ヶ月)	-	4-

30

0.01% 6-パラドール (DPG中)	安定性 $\Delta N$	色 $\Delta C$
5°C (3ヶ月)	-	5
Sun テスト (16時間)	4+	3+
50°C (1ヶ月)	4	2+
40°C (3ヶ月)	4	2+
RT ライト (3ヶ月)	-	4-

40

テストしたすべての条件で、コントロールサンプル（抗酸化剤なし）で香りの影響は変化しなかった。抗酸化剤（[6]-パラドールまたはBHT）の添加は、フレグランスの影響の保護に影響を与えなかった。

【0049】

すべての添加剤は、コントロールサンプル（対照）と比較してフレグランスの安定性を増加させる。

【0050】

50 で1ヶ月後：すべての濃度の[6]-パラドールは、BHTおよびコントロールサンプルと比較してフレグランスの安定性を改善する（BHTは、コントロールサンプル

50

と比較して [ 6 ] - パラドール未満で改善する )。

【 0 0 5 1 】

4 0 で 3 ヶ月後：すべての添加剤は、コントロールサンプルと比較してフレグランスの安定性を増加させる。

【 0 0 5 2 】

【 表 5 】

フレグランス FEROCÉ の結果

抗酸化物質なし	安定性 ΔN	色 ΔC
5°C (3 ヶ月)	-	5
Sun テスト (16時間)	3	5+
50°C (1 ヶ月)	3	3+
40°C (3 ヶ月)	4-	1+
RT ライト (3 ヶ月)	-	3-

10

0.05% BHT (エタノール中) + 0,001% EDTA	安定性 ΔN	Color ΔC
5 °C (3 ヶ月)	-	4-
Sun テスト (16時間)	4	5+
50°C (1 ヶ月)	4	5
40°C (3 ヶ月)	4	5+
RT ライト (3 ヶ月)	-	4-

20

0,05% [6]-パラドール (エタノール中) + 0,001% EDTA	安定性 ΔN	色 ΔC
5 °C (3 ヶ月)	-	4-
Sun テスト (16時間)	3	5+
50°C (1 ヶ月)	4	5+
40°C (3 ヶ月)	4+	4+
RT ライト (3 ヶ月)	-	3-

30

0,05% [6]-パラドール (DPG中) + 0,001% EDTA	安定性 ΔN	色 ΔC
5 °C (3 ヶ月)	-	5
Sun テスト (16時間)	3	5+
50°C (1 ヶ月)	4	5+
40°C (3 ヶ月)	4	4+
RT ライト (3 ヶ月)	-	3-

0,01% [6]-パラドール (DPG中) + 0,001% EDTA	安定性 ΔN	色 ΔC
5 °C (3 ヶ月)	-	4-
Sun テスト (16時間)	3+	5
50°C (1 ヶ月)	4	5+
40°C (3 ヶ月)	4+	4+
RT ライト (3 ヶ月)	-	3-

40

テストしたすべての条件で、コントロールサンプル (抗酸化剤なし) で香りの影響がわずかに変化した。抗酸化剤 ([ 6 ] - パラドールまたは BHT) の添加は、フレグランスの影響の保護に影響を与えなかった。

【 0 0 5 3 】

50

50 で1ヶ月後：コントロールサンプルと比較して、すべての添加剤によるフレグランスおよび色安定性の増加。

【0054】

5 で3ヶ月後：0.05%の[6]-パラドール(DPGでのブレンド)でより良い色安定性、他の添加剤はコントロールサンプルよりも悪い。

【0055】

40 で3ヶ月後：すべての添加剤は、コントロールのために非常に変更されたフレグランスの色を保護する。

【0056】

【表6】

結果：臭いの保護- ECLAT

状態		0.05% BHT (エタノール内)	0.05% 6-パラドール(エタノール内)	0.05% 6-パラドール(DPG内)	0.01% 6-パラドール(DPG内)
Sun テスト (16時間)	安定性 ΔN	+	++	++	+++
40 °C	安定性 ΔN	+	+	+	+
50 °C	安定性 ΔN	+	++	++	++

= : コントロールサンプルに似ている

+ : コントロールサンプルより良い

- : コントロールサンプルより悪い

[6]-パラドールは、コントロールサンプルと比較して香りを安定させるのに役立つ、ほとんどの状況でBHTよりも優れた結果をもたらす。DPG中の[6]-パラドールの0.01%の濃度は、光で他の濃度よりも優れた安定性を提供するのである。試験した抗酸化剤、[6]-パラドールまたはBHTの両方で、香りへの影響の改善は観察されなかった。

【0057】

【表7】

結果：色の保護-FEROCE

状態	0.05% BHT (エタノール内)	0.05% 6-パラドール(エタノール内)	0.05% 6-パラドール(DPG内)	0.01% 6-パラドール(DPG内)
5 °C	-	-	=	-
Sun テスト (16時間)	=	=	=	+
40 °C	++	+	+	+
50 °C	++	+	+	+

【0058】

[6]-パラドールは、BHTのように、高温(40 および50)でフレグランスの色を保護するのに役立つ。DPG中の0.01%の[6]-パラドールは、Sunテスト後にフレグランスの色を安定させる唯一の添加剤である。[6]-パラドールは、EDTを光による変色から保護する効果はなかった。

【実施例2】

【0059】

クレンジング組成物の安定化

【0060】

10

20

30

40

50

[ 6 ] - パラドールが固形石鹼における B H T の代替となり得るかどうかを検証するために、2つの研究が開始された。[ 6 ] - パラドールと B H T との酸化臭、色の保護、および香りとその変色の保護に対する有効性を比較した。

石けん基剤 1 には、80%の脂肪（1%の遊離脂肪酸を含む）が含まれており、高水分（12%）である。それは酸敗臭に対して非常に敏感であることが知られている。

石けん基剤 2 には、96%の脂肪が含まれており（遊離脂肪酸は含まれていない）、水分含有量は低くなっている（2%）。酸敗臭に対する感受性は低いことが示されている。

【 0 0 6 1 】

【表 8】

酸敗臭の調査

原材料名	EU INCI	A.01	A.02	A.03	A.04	D.01	D.02	D.03	D.04
石鹼ベース 1		99.9	99.5	99	100	-	-	-	-
石鹼ベース 2	牛脂肪酸ナトリウム ココエートナトリウム パームやしナトリウム 水 二酸化チタン	-	-	-	-	99.9	99.5	99	100
BHT	ブチルヒドロキシトルエン	0.1	-	-	-	0.1	-	-	-
SymDecanox HA	カプリル酸/カプリル酸トリグリセリド、 ヒドロキシメタキシフェニルデカノン	-	0.5	1	-	-	0.5	1	-
合計 (%)		100	100	100	100	100	100	100	100

10

20

【 0 0 6 2 】

【表 9】

色の保護の調査

原材料名	EU INCI	B.01	B.02	B.03	B.04	E.01	E.02	E.03	E.04
石鹼ベース 1		99.6	99.2	98.7	99.7	-	-	-	-
石鹼ベース 2	牛脂肪酸ナトリウム ココエートナトリウム パームやしナトリウム 水 二酸化チタン	-	-	-	-	99.6	99.2	98.7	99.7
青色着色剤FD&C Blue 1 0.1% sol.	水 C.I. 42090	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
BHT	ブチルヒドロキシトルエン	0.1	-	-	-	0.1	-	-	-
SymDecanox HA	カプリル酸/カプリル酸トリグリセリド、 ヒドロキシメタキシフェニルデカノン	-	0.5	1	-	-	0.5	1	-
合計 (%)		100	100	100	100	100	100	100	100

30

40

【 0 0 6 3 】

石鹼のすべてのサンプルは、異なる条件に置かれる：5（コントロールサンプルとして使用される）、RTダーク、RTライト、3ヶ月間40および1ヶ月間50で、毎月評価される。クラッシュテスト（CT、5サイクル50 / 室温 / -20）とSUNテスト（ST）も実行される。すべての石鹼に対してOxipresssテストが開始される。Oxipresssは、あらゆる種類の原材料、食品、動物飼料、化粧品、バイオディーゼルなどの半製品および最終製品の油脂の耐酸化性を決定する。Oxipresssを使用すると、異種製品を検査することができる。したがって、分析前に製品から油脂を

50

抽出する必要はない。サンプルは、準備なしで反応容器に入れることができる。

【 0 0 6 4 】

SymDecanox (商標) HA は、1 重量%の [ 6 ] - パラドールの濃度を有する。

【 0 0 6 5 】

酸敗臭の研究のために、悪臭の定量的評価が行われる：過酸化物価の測定。過酸化物価は、酸化的一次生成物のマーカーである。サンプルの比色測定も毎月行われる。

【 0 0 6 6 】

色の保護の研究のために、サンプルの比色測定が毎月行われる。比色測定結果の方程式は次のとおりである。

$$\Delta E_{ab}^*_{vs\ t=0} = \sqrt{(L_x^* - L_{t=0}^*)^2 + (a_x^* - a_{t=0}^*)^2 + (b_x^* - b_{t=0}^*)^2}$$

$$\Delta E^*_{vs\ control} = \sqrt{(L_x^* - L_{control}^*)^2 + (a_x^* - a_{control}^*)^2 + (b_x^* - b_{control}^*)^2}$$

【 0 0 6 7 】

酸敗臭の研究結果

【 0 0 6 8 】

過酸化水素値

図 1 と図 2 は、シンガポールと石けん基剤 2 の結果を示している。石けん基剤 1 から、0.5%の SymDecanox HA が 2 か月の光で良好な結果を達成していることがわかる。図 3 は、石鹼ベース 1 の比色測定の結果を示している。これらの結果は、SymDecanox HA が光でプラスの影響を与え、高温での保護が優れていることを示している。クラッシュテストに関しては、1%の SymDecanox HA が石鹼の変色を防ぐ。

Sunテスト後、BHTと1% SymDecanox HAの両方に悪影響があり、コントロールサンプル(コントロール)と比較して変色が増加していることがわかる。

図 4 は、石鹼ベース 2 の比色測定の結果を示している。ご覧のように、1%の SymDecanox HA は、衝突試験後だけでなく、光でも高温でも変色を防ぐためのより効果的な抗酸化剤である。

【 0 0 6 9 】

Oxipressテストでは、コントロールサンプル石鹼に対して、0.1% BHTの石鹼、0.5% SymDecanoxの石鹼、および1% SymDecanox HAの石鹼が提供される。

【表 1 0】

石鹼ベース1

	圧力(バー)		
	P <sub>1h</sub>	P <sub>72h</sub>	P <sub>72h</sub> -P <sub>1h</sub>
<b>A.01 - 0,1% BHT</b>	6,26	6,22	-0,04
<b>A.02 - 0,5% SymDecanox HA</b>	6,30	6,03	-0,27
<b>A.03 - 1% SymDecanox HA</b>	6,04	6,08	0,04
<b>A.04 - コントロール</b>	6,09	5,84	-0,25

10

20

30

40

50

【表 1 1】

石鹼ベース2

	圧力 (バー)		
	P <sub>1h</sub>	P <sub>48h</sub>	P <sub>48h</sub> -P <sub>1h</sub>
D.01 - 0,1% BHT	6,15	6,2	0
D.02 - 0,5% SymDecanox HA	6,19	6	-0,2
D.03 - 1% SymDecanox HA	6,07	6,26	0,04
D.04 - コントロール	6,1	6,18	-0,18

10

## 【0070】

両方の石鹼ベース1, 2について、酸素消費量は、0.1% BHTと1% SymDecanox HAを含む石鹼と比較して、0.5% SymDecanox HAとコントロールサンプルとを含む石鹼の方が重要である。これは、0.1% BHTと1% SymDecanox HAの両方が石鹼を酸化から保護することを示している。図5は、石鹼ベース1の結果を示している。図6は、石鹼ベース2の結果を示している。

## 【0071】

色の保護の研究の結果

20

図7は、石鹼ベース1の結果を示している。図8は、石鹼ベース2の結果を示している。

図7からわかるように、BHTは、コントロールサンプルに対して、40°Cで3か月後の変色に悪影響を及ぼす。50°Cで1か月後、BHTは石鹼を強く変色させる。さらに、1%のSymDecanox HAを添加すると、40°Cで3か月後に石鹼が変色するのを防ぐことができる。0.5%のSymDecanox HAにもプラスの影響があるが、BHTは対照の石鹼よりも変色する。

図8から、SymDecanox HAは高温での石鹼の変色を防ぎ、この効果は用量依存的事であることがわかる。それはBHTおよび制御よりよい効力を持っている。高温では、BHTは石鹼を保護せず、コントロールと同じ結果になる。BHTとSymDecanox HAはどちらも、光でコントロールサンプルに対して小さな影響を与える。

30

## 【0072】

Oxipressテストでは、0.1%のBHTを含む石鹼に対する0.5%のSymDecanoxを含む石鹼、および1%のSymDecanox HAを含む石鹼に対するコントロールサンプル石鹼が提供された。

【表 1 2】

石鹼ベース1

	圧力 (バー)		
	P <sub>1h</sub>	P <sub>72h</sub>	P <sub>72h</sub> -P <sub>1h</sub>
B.01 - 0,1% BHT	6,19	6,2	0,01
B.02 - 0,5% SymDecanox HA	6,23	6	-0,23
B.03 - 1% SymDecanox HA	6,28	6,26	-0,02
B.04 - コントロール	6,31	6,18	-0,13

40

50

【表 1 3】

石鹼ベース 2

	圧力 (バー)		
	P <sub>1h</sub>	P <sub>25h</sub>	P <sub>25h</sub> -P <sub>1h</sub>
E.01 - 0,1% BHT	6,27	6,25	-0,02
E.02 - 0,5% SymDecanox HA	6,24	6,12	-0,12
E.03 - 1% SymDecanox HA	6,21	6,2	-0,01
E.04 - コントロール	6,3	6,22	-0,08

10

図 9 は、石鹼ベース 1 の結果を示す。 図 10 は、石鹼ベース 2 の結果を示す。

【 0 0 7 3 】

【表 1 4】

結論：石鹼の酸化および変色からの保護

石鹼のタイプ	石鹼名	試験(期間)	状態	0.1% BHT	0.5% SymDecanox	1% SymDecanox
無色無香料 石鹼	石鹼ベース1	カラー L. a. b (3ヶ月)	RT ライト 40-50 °C	++	+	+
		Oxipresss (72h)	RT ダーク	-	=	=
		カラー L. a. b (3ヶ月)	ライト 40-50 °C	++	=	++
		Oxipresss (72h)				
	石鹼ベース2	カラー L. a. b (3ヶ月)	RTライト 40-50 °C	=	+	+
		Oxipresss (72h)	RT ダーク	++	=	++
着色無香料 石鹼	石鹼ベース1	カラー L. a. b (3 months)	RTライト 40-50 °C	++	+	=
		Oxipresss (72h)	RT ダーク	++	=	++
		カラー L. a. b (3ヶ月)	ライト 40-50 °C	+	+	+
	石鹼ベース2	カラー L. a. b (3ヶ月)	40-50 °C	=	+	++
		Oxipresss (72h)	RT ダーク	++	=	++

20

30

40

= : コントロールサンプルに似ている

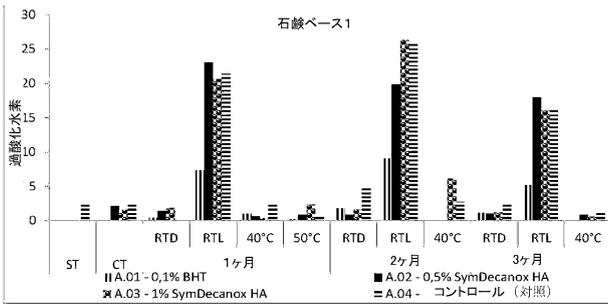
+ : コントロールサンプルより良い

- : コントロールサンプルより悪い

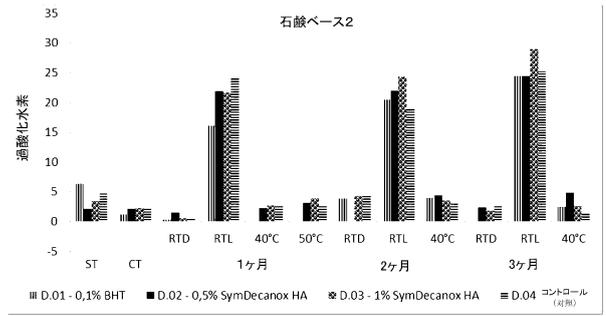
50

【 図面 】

【 図 1 】

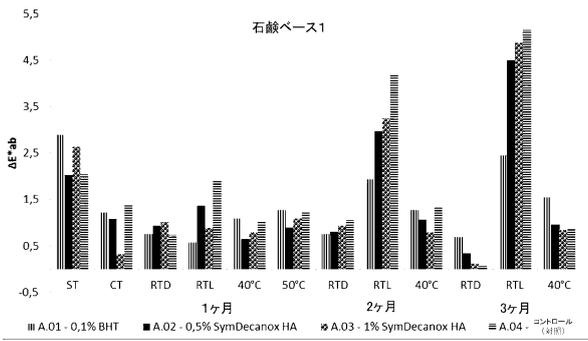


【 図 2 】

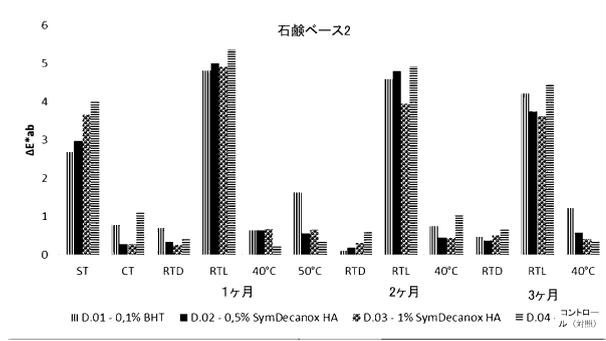


10

【 図 3 】

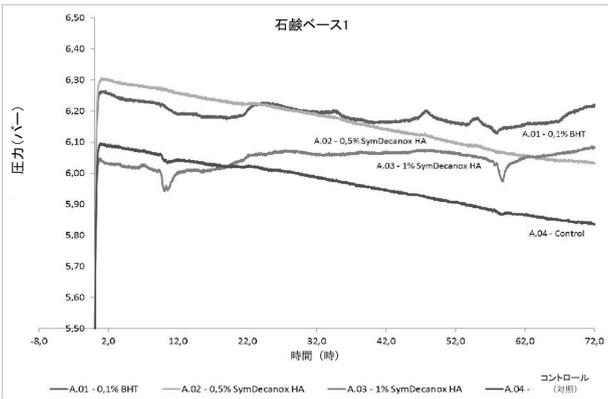


【 図 4 】

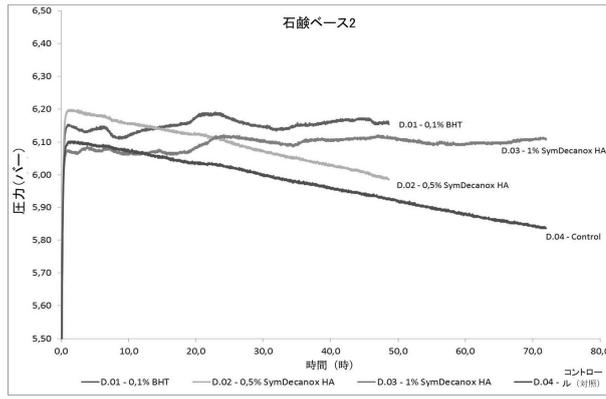


20

【 図 5 】



【 図 6 】

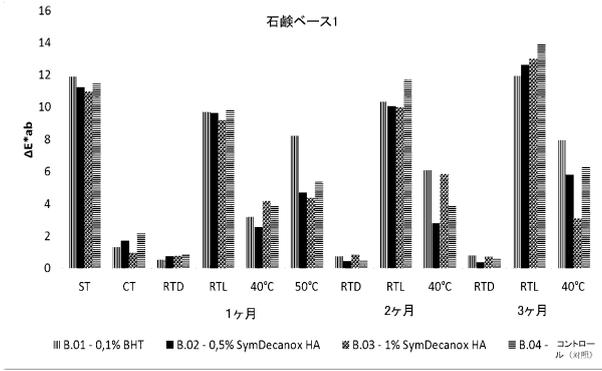


30

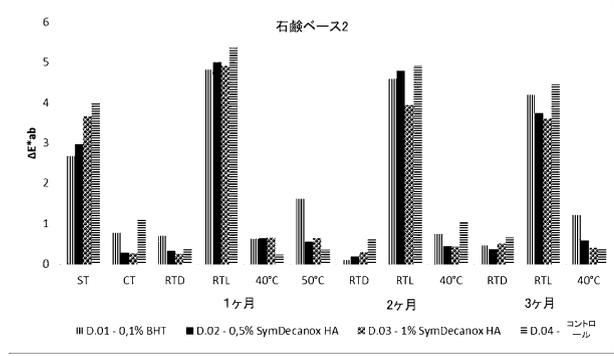
40

50

【 図 7 】

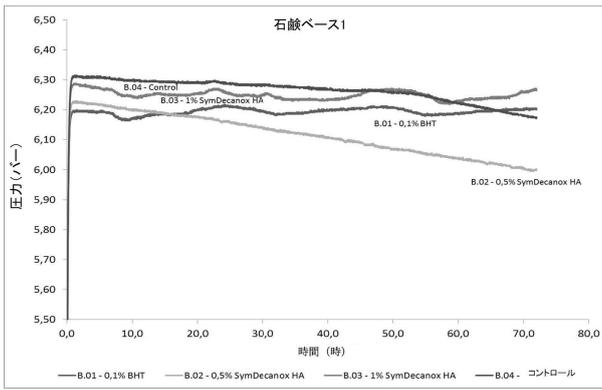


【 図 8 】

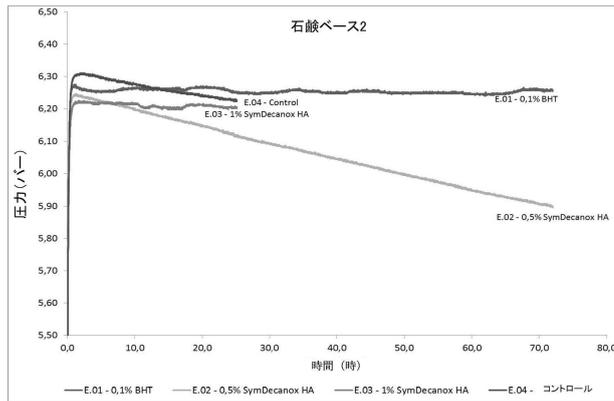


10

【 図 9 】



【 図 10 】



20

30

40

50

## 【手続補正書】

【提出日】令和4年11月9日(2022.11.9)

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項1】

クレンジング組成物又はフレグランス組成物を変色および/または臭気の逸脱から保護するための〔6〕-パラドールの使用。 10

## 【請求項2】

前記フレグランス組成物が香味化合物およびフレグランス化合物を含み、前記香味化合物が植物の葉、花、果実等から得られる香味液および/または油、およびそれらの組み合わせから選択される、請求項1に記載の使用。

## 【請求項3】

前記香味液が、人工、天然または合成のフルーツフレーバー、およびフルーツエッセンス、豆およびナッツ由来のフレーバー、および根由来のフレーバーを含む、請求項1または請求項2に記載の使用。

## 【請求項4】

〔6〕-パラドールが、前記クレンジング組成物又は前記フレグランス組成物の総重量に基づいて0.00001~1重量%の量で前記クレンジング組成物または前記フレグランス組成物に添加される、請求項1から請求項3のいずれか一項に記載の使用。 20

## 【請求項5】

前記クレンジング組成物または前記フレグランス組成物がブチル化ヒドロキシトルエンを含まない、請求項1から請求項4のいずれか一項に記載の使用。

## 【請求項6】

前記クレンジング組成物または前記フレグランス組成物が化粧品組成物として使用される、請求項1から請求項5のいずれか一項に記載の使用。

## 【請求項7】

〔6〕-パラドールが、溶剤との混合物として化粧品組成物に添加される請求項1から請求項6のいずれか一項に記載の使用。 30

## 【請求項8】

前記溶剤が水溶性および/または混和性溶剤である、請求項7に記載の使用。

## 【請求項9】

前記溶剤がカプリル酸/カプリン酸トリグリセリドまたはジプロピレングリコールである、請求項7に記載の使用。

## 【請求項10】

前記クレンジング組成物が石鹸である、請求項1から請求項9のいずれか一項記載の使用。 40

## 【請求項11】

前記フレグランス組成物がオードトワレである請求項1から請求項10のいずれか一項または複数の請求項に記載の使用。

## 【請求項12】

クレンジング組成物またはフレグランス組成物の臭気および/または色を安定化させる方法であって、〔6〕-パラドールが前記クレンジング組成物または前記フレグランス組成物に添加される、方法。

## 【請求項13】

前記クレンジング組成物が石鹸である請求項12に記載の方法。

## 【請求項14】

50

前記フレグランス組成物がオードトワレである請求項 1 2 に記載の方法。

【請求項 1 5】

[ 6 ] - パラドールを含有する石鹸又はオードトワレ。

10

20

30

40

50

---

フロントページの続き

ール 9 2 1 0 0 クール アキテーヌ 2 1 2  
(72)発明者 ル・メール マリエレ  
フランス共和国 9 2 1 0 0 ブローニュ・ピヤンクール クール・アキテーヌ 2 1 2